



島Pだより

No.42
2019.3



平成30年度を振り返って

島根県PTA連合会

会長 原 完次

平素より島根県PTA連合会の活動にご理解とご協力を頂き、平成30年度の活動も無事終わることができそうです。県および各市郡PTA、単位PTAや母親委員会の様々な活動や研修等へ、たくさんのご参加をいただき本当にありがとうございました。

さて、今年では日本でPTAが創立して70周年を迎え11月21日には東京のホテルニューオータニで記念式典がご来賓に皇太子同妃両殿下をお迎えし行われました。団体表彰として文部科学大臣表彰には、大田市立第三中学校PTAと奥出雲町立阿井小学校PTAが、日本PTA会長表彰には、松江市立内中原小学校PTAと大田市立北三瓶小中学校が受賞されました。また、個人表彰には、特別表彰を含め11名の方々が受賞されました。長年のPTA活動にご尽力頂きましたことに心より感謝を申しあげます。おめでとうございます。

そして、県内でも8月5日に安来市に新しく完成した安来市総合文化ホール アルテピアにて、「高めよう 家庭の力 見つめよう 子どもの心」をテーマに平成30年度 島根県PTA連合会研修大会 安来大会を開催させていただきました。

実践発表では活動内容を分かり易く、また趣向を凝らした発表は非常に印象に残るものでした。その後の民放アナウンサーの笠井信輔氏の講演も3人の子を持つ父親として、いじめ問題の体験談を交えた内容などとても考えさせられる内容だったと思います。

開催に至っては当日までの準備運営に携わっていただきました安来市の皆様本当にありがとうございました。この研修大会を通して安来市PTA連合会の団結力を見させていただき、こういった力がPTA活動をよりよいものにしていくのだと実感しました。

昨今の子ども達の周りでおきているネットトラブルやいじめ、そして本来守るべき親が子どもの命を奪ってしまうなど、やりきれなくなる事件がおきるなど日々問題は深刻になって来ています。

これらの問題を解決するために、今以上に私たちPTAと学校、地域が一緒になって取り組んで行かなければいけないと思いますので、これからもPTA活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

事業報告

総務委員会

「PTA広報紙の存在意義」

委員長 陶山 健志

平成30年度の総務委員会も昨年度に引き続き、出雲地区が担当しました。

総務委員会の所管事項は、「組織・財政・広報活動に関すること」とされており、ここ数年はPTA広報紙の活性化という視点で活動を行っています。

今年度も県PTA広報紙コンクールにおいて県表彰の対象とならなかった作品の中から、5月に開催した総務委員会審査会で総務委員会大賞を選出し、表彰を行いました。

広報紙については、各単Pで様々な工夫を凝らして発行されており、そのご苦勞に敬意を表します。ただ某教育関連企業の調査

によれば、PTA広報紙を読まない保護者も一定割合存在し、また、最近ではホームページやフェイスブックを活用した広報も広がりつつあることから、紙媒体広報不要論もあるようです。様々な考え方がありますが、個人的には、普く広報できるという意味では、やはり紙媒体が最良の方法ではないかと思っています。また、学校のホームページや学校だよりはあくまで学校のものであり、PTA、特に保護者の思いや考えを含めて発信できるものはPTA広報以外にはありません。

編集にあたり、広報委員会で取材や原稿執筆など全てを担当されている場合もあれば、保護者に原稿執筆を依頼されている場合もあるでしょう。いずれにしても、書き手の伝えたい思いが詰まったものであれば、その向こうにいる読み手の中には、何かを感じてくれる人もいるのではないのでしょうか…。

最後に、来年度のコンクールにもたくさんのPTAから応募があることを願っています。

教育問題委員会

教育問題委員会活動報告

委員長 安部 慎

教育問題委員会は、松江・安来・隠岐地区が担当しています。1月に松江地区にて委員会を開催しました。

委員会では、1つ目の議題として8月に開催した島根県PTA連合会研修大会の反省と課題について討議しました。本年度実行委員長を務めさせていただき、実行委員からの反省点や来場者アンケートによる要望等に対して、教育問題委員の意見を伺

いました。取りまとめた内容を理事会で報告し、是非来年度以降の研修大会の参考にしてもらえればと思います。

議題の2つ目は、文科省の推進するコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の現状把握や今後の導入に向けて、委員会内部での各学校・地域の関わり合いについてヒアリングを行いました。県内でもこれから益々推進されると想定されますので、我々も制度や運用について学ぶことが多いと感じました。

当初の予定では隠岐で委員会開催を予定していましたが、開催が冬季にずれ、交通の都合上残念ながら断念しました。隠岐の地で学ぶこともあるかと思っておりますので、来年度以降、機会があれば隠岐での開催も検討していただければと思います。

厚生委員会

三行詩の審査と今後の役割

委員長 佐々木慎司

本年度も前年から引き続き浜田地区が厚生委員会として担当をさせていただきました。

内容としては、継続して三行詩の募集と審査を行い、前年の230点よりも募集は減りましたが、応募総数は155点の作品をいただきました。

応募参加校と作品点数は、小学校の部15校49点、中学校の部7校70点、一般の部小中併せ13校36点となりました。応募いただいた内容を7月に入り、1次・2次審査会を開催し、各部門5点を全国推薦をさせていただきました。

今年度も、心暖まる作品が多数あるなか自信をもって推薦させていただきましたが、残念ながら今年度も全国表彰を受賞する作品の選出はありませんでした。

今年度も担当をし、前年に申し上げていた啓発活動と思っておりましたが、本年度中には実践する事はできませんでした。その中でも熱心に授業の一環としてすすめられ学校で取り組んで

おられる事を知ることでもできました。会の話の中で三行詩を初めて知る方もおり、内容を見て改めて書き方や内容を把握することができたと言われ、単PTAでも実践してみたいとのご意見もいただきました。また、実際どのような作品内容なのか、実は聞いた事があるけど中身があんまりわからないと思われる方々へ今回お示ししたいと、本年度推薦させていただいた作品の中から1点を、一般の部よりご紹介させていただきたいと思います。

「長女が巣立ち、家族の歯車が噛みあわず
父と母との会話なく間に入って
笑顔にさせる
次女の気づかい ありがとう」

この様な言葉で家族への思い、子どもたちへの思い、子供達が日ごろ言えない家族への感謝の言葉、その他にも色々な思いを伝える大切な事ではないかと私自身は感じております。募集期間もここ近年は早まり、早く対応できない学校等もあるかとも思いますが、保護者の皆様からすすんで意思疎通をはかっていただきたいと思います。

その中でも今年度も多数の作品を応募いただいた事への感謝と、更に三行詩が広がるようにバトンを渡していければと思います。来年度も多数の作品をご応募いただきますよう宜しくお願いします。

環境対策委員会

子どもを取りまく環境について学ぶ

委員長 浅井 鉄巳

昨年度に引き続き、環境対策委員会を益田・鹿足地区が担当しました。昨年度は鹿足郡を会場に研修会を実施しましたので、今年度は10月27日に益田市立東陽中学校を会場にして、研修会を実施しました。

講師には、大阪大学大学院教授の小野田正利先生をお迎えし、「わが子のために、そしてわが子につながる子たちのために」～いま、親、そして大人ができること～という演題でご講演をいただきました。当日は益田地区を中心に、約200名の参加がありました。

講演では、手を取り合いながら子どもの成長を喜び合える学校、家庭、地域がほんのささいな行き違いからトラブルになり、関係がぎくしゃくし、子どもの課題が、いつの間にか大人どうしの問題になっていくことが多くなっていますが、もう一度関係を結び合うにはどうしたらよいのか、「子どもの発達とは?」「子どもの成長とは?」という視点で、ユーモアを交え話していただきました。

参加者から寄せられた感想は、「重たい問題を、楽しい語りで多くの例をあげながらお話しいただき、明日からの活力となった。」「P(保護者)とT(教師)の立場から理解できた。」「家庭は学校のことをもっと知らなくてはいけないと感じた。」など肯定的な内容ばかりで、たいへん充実した研修となりました。



また、1月27日には、益田市で開催された「早寝早起き朝ごはんフォーラムinしまね」に関係機関とともに主催者として参画しました。久里浜医療センターの松崎尊信先生の「ネット・ゲーム依存の実態と予防のために」という演題の基調講演ののち、「メディア接触に関すること」「食に関すること」の分科会に分かれ、学びを深めました。

研修会に参加することで、子どもを取りまく様々な課題について考え、向き合うためのヒントを得ることができました。著名な専門家を招きこのような研修の場を用意するのも、県P連の重要な役割だと改めて感じました。

母親委員会

母親委員会活動報告

委員長 千原 恵

母親委員会では、我が子、地域の子どもたち、そして、島根の子どもたちを、笑顔でいきいきと心豊かに育てるために、PTA会員同士がコミュニケーションを深め、共に育っていくことを目指して活動しています。

今年度は、3回の委員会と研修会を開催しました。

研修会は、12月に大田市の『アステラス』を会場に開催しました。講演の前には、子育てしながら演奏活動をされている『DUO*Affetti』(デュオ*アフエットィ)のお2人のフルートと

ヴァイオリンの音色に癒やされました。

講演では、薬剤師、日本笑い学会理事、日本産業ストレス学会理事など異色の肩書をお持ちの中井 宏次氏をお招きし、『顔が笑うところが笑う 脳が笑う』と題し、ユーモアあふれる笑いの絶えない素敵なお話をお聴きしました。

当日は、県内各地から200人を超える会員の皆様にご参加いただき、盛会に終わりましたことに感謝いたします。

1年間いろいろとお世話になりました。ありがとうございました。



全国表彰

ありがとうPTA

県P連 第23代会長 田中耕太郎

18年前、「文化部長を受けてくれない? 今回だけでいいから。」と誘われ、その後いつの間にか、単P会長、市P連会長、県P連会長への栄光?の階段が目の前に…。登るしかないのかと、覚悟を決めたもののいつも不安だらけでした。しかし、これまでの大役を何とか務めることができたこと、そして今回のPTA活動振興功労者表彰を頂戴したことは、周りの方々の優しさの賜物だと、衷心より感謝申し上げます。

今、私のPTAが終わりますが、PTA活動は楽しかったという思いでいっぱいです。そしてそこには、多くの方との出会いや、色々な話に耳を傾ける場と、子育て・親育ちのヒントがありました。

「だまされた。」PTA役員経験者の多くが口にする言葉です。で



も、何故か皆さん笑顔でその言葉を口にします。そう、私も騙された一人です。

未体験の方、一度だまされてみませんか。そして、愛して止まない子どものためにも、活動を楽しんでみて下さい。

PTA 活動紹介

【隠岐地区】

「子どもとメディアの 関係を考える」

西ノ島町立西の島小学校PTA

会長 三島 秀威

島前PTA連合会では隔年で合同研修会を行っており、今年は「メディア社会で生きる子どもたち」という演題で子どもと保育研究所ぷろほ理事長の山田眞理子先生をお迎えして講演会を開催し、約100名の方にご参加いただきました。現代の子ども達は乳幼児期、もっと言えば母の胎内にいる時からメディアとの関わり

りが始まっており、SNSの普及、スマートフォンやゲームを介したコミュニティの確立といった現代社会において、子ども達が長時間メディアに接触することによる生活習慣の乱れや学力への影響などについて講演していただきました。子どもの育ちとメディアの影響について科学的なデータを交えながら分かりやすく説明していただいたことで、その影響の大きさに驚き、またメディアが子どもの心身に与える様々な影響について学ぶことができました。子どもとメディアの関わりについて、保護者も教育関係者も関心はあるもののまだまだ認識が浅く、今後もこのような機会を通じて警鐘を鳴らし続けていくことが重要であると感じたところです。よく、隠岐の大自然でのびのびと子育てをしてみたいといった声を耳にしますが、メディアとの関わりについては田舎も都会もないのが現代の実情です。メディアとの関係を考え直し、それぞれの土地や風土に合った子育てができるよう、連合会として今後も継続して学習する機会を提供していきたいと考えています。

【松江地区】

「アルミ缶回収運動」

松江市立宍道小学校PTA

会長 長谷川修二

宍道小学校PTAでは、平成29年7月より毎月アルミ缶回収活動を行っております。

これは子どもたちにリサイクルについて考えてもらうことと、PTA会員の皆さんへのリサイクル意識の啓発を目的に始めたものです。

宍道小学校PTA環境部で一年間のアルミ缶回収カレンダーを作り、毎月の指定日にPTA環境部員さんと先生方の協力を得て、児童昇降口に回収ボックスを設置します。そこへ全校の児童が登校の時に各自持てる範囲で袋に入れたアルミ缶を持って来て入

れる。また各PTA会員も子どもたちが持ち切れなかったアルミ缶を持ち寄り回収ボックスに入れる簡単な作業です。

毎月の回収量は1トン土嚢袋に2袋から3袋ですが、今では地域の皆さんも協力して下さるようになり、徐々にではありますが回収量は増えてきております。

私たちの住む松江市では、松江市民の皆さんへの環境保全の啓発やリサイクル意識の向上への啓発に取り組んでおります。

宍道小学校PTAのアルミ缶回収運動もその主旨や目的は一緒であり、行政にも協力をいただき、また協力をしながら、PTA、学校、地域が一体となったアルミ缶回収運動に繋がればと思っております。

そしてこの地域で育った子どもたちが、アルミ缶回収運動を通して、生涯リサイクルの意識を絶やさず持ち続けてくれることを願っております。



【出雲地区】

「落語の活動で地域貢献」

奥出雲町立高尾小学校PTA

会長 藤原 祥治

高尾小学校は生徒数9名と奥出雲町でも最小の小学校です。児童数が少なく、多くの人と出会う機会を作るため、前教頭先生が落語の取り組みを6年前から始めました。

当初は3年生、4年生のみ落語を行っていましたが、現在では全学年で行うようになっていきます。「にこにこ寄席」と題し、地域

の集まりや松江や出雲などに出張なども行い、皆様に笑いを届ける活動をしています。PTAは送迎など最大限のバックアップを行うことはもとより、一番のファンとなって子供たちの取り組みを応援しています。先生も落語の師匠となり、子供たちに話し方や間など指導を行っています。

子供たちは学年が上がるとともに、難しく長い話にも積極的に挑戦し、自分のものにしていきます。上級生が下級生をリードすることで1年生でも自信をもって高座に上がることで出来ています。本題に入る前の「まくら」も上級生になると自分たちで考え、時事ネタを取り入れるなど工夫し、大人でも感心するまで上達しています。

平成29年からは日本赤十字社島根県支部とともに落語の力で被災地に元気を届けるチャリティー活動を始めました。この取り組みは「奉仕の心」を育むには大変良い活動となっており、子供達も率先して行動し、地域に笑顔を届けています。

小規模校でなければなかなかできない取り組みですが、子供たちが多くの方と出会い、成長するためには貴重な経験をしていると思います。地域の方々の支援の下、小学校活動やPTA活動が行えることに喜びを感じながら、これからも活動を行っていききたいと思います。



【浜田地区】 「少ない人数でも、 みんなで楽しく温かく」

大田市立志学小中学校PTA

会長 稲田 洋二

我が志学小中学校は、小学校と中学校の校舎が横にひとつながりの造りとなっています。そのおかげもあり、様々な活動と一緒にやる機会が多い(特に運動会や文化祭は小中が合同で行っています)事はもちろんですが、普段の学校生活においても、日頃から小学生と中学生が顔を合わせ、一緒に笑い合う場面が多く



見られています。また給食時間は同じランチルームで一緒に食事をするなど、ふれあい溢れる温かい環境の中にあります。さらに平成22年からは地元の保育園が、児

童の減少によって空室となっていた教室をリフォームし、移転。今では保育園から中学校までがひとつの校舎でつながった環境で過ごしています。そのため、中学生が保育園に絵本の「読み聞かせ」に行くなど、園児たちとふれあう姿も日常的な光景となっています。

PTAの組織も小中が合同で構成されており、会員数は少ないですが、総務部・事業部・育成部の3部分に分かれ、登校時の「交通安全街頭指導」や小中一緒の「親子ふれあい活動」など、安全の見守りから親子の思い出作りまで、幅広く活動に取り組んでいます。

また毎年行っている「PTA食育講座」という調理実習活動では、今年度は「三瓶ブロック地域おこし協力隊」や「地元の食育ボランティア」の方にご協力をいただき、地元の食材を使っただけのアイディアメニューの調理実習を行いました。地域の方から子供達が、お母さん、お父さんから我が子が、食材の切り方から炒め方などを教わりながら料理する姿、また時には、中学生と小学生が手を取り合いながら料理する様子が見られ、微笑ましく頼もしい光景が溢れていました。

私達は、PTAの人数は少ない中ではありますが、力を合せながら「みんなで楽しく温かな活動」の想いのもと、これからも子供達の健やかな成長を支えていきたいと考えています。

【益田地区】 給食配膳台製作活動

益田市立吉田小学校PTA

会長 檜谷 邦茂

吉田小学校PTAはスローガンに「ちえんじ」というキーワードを掲げて活動をしています。社会も子どもたちも変化していく背景において、これまでの慣習にとらわれることなくPTA活動も変わっていかうという意志を言葉にしたものです。

さて、今年度は県PTA連合会の支援を頂いて「給食配膳台製作活動」を実施いたしました。子どもたちが給食の配膳をするときに食缶を並べる台ですね。長年の使用で劣化しているものを新しくできないかというのが課題でした。もちろん、こういったものは商品化されて販売されていますので、購入しようと思えばできます。しかし、とても高価です。

「これって、作れるんじゃないの?」「親子で製作したら思い出にも残る。」自分たちが制作した配膳台があれば、給食という時間にもっと価値を付加できるようになるんじゃない?」PTA役員会ではこんなことを話しながら準備が始まりました。

当初は7月初旬に予定していたものの、中国地方に豪雨災害が出るほどの天候だったため延期を決定、夏休みの終盤である8月26日(日)に日程を変更して実施しました。

当日は益田建築組合の皆さんに講師をお願いし、親子で4台の配膳台を製作することができました。親子で材料に色を塗ったり、電気工具を使用してネジ止めをしたり、「キレイに塗れたね。」とか、「おー、うまいね。」などと声をかけられると、子どもたちはもちろんですが実は大人たちも嬉しい。自分の家庭だけではやることかもしませんが、こうしてPTA活動として集まってDIYをするのは楽しい。しかも、その配膳台は実際に子どもたちが毎日使うものになるのです。気持ちも自然と入りますよね。

こんな風楽しく活動し、必要な配膳台を製作できたのは、益田建築組合の皆さんのご協力があったのものでした。材料である木材の選定から部品の用意、工具の使い方指導まで、本当にお世話になりました。地域の皆さんに支えられていることに感謝を申し上げたいと思います。

実は、配膳台の裏に製作に関わった親子のサインを入れました。配膳台は木材で製作されているので、メンテナンスをしていけば何年だって使えます。子どもたちが親になった将来、自分のサインが入った配膳台を教室で見つけることができたら嬉しいな、なんて思っているところです。



日本PTA中国ブロック研究大会に参加して (参加者報告)

出雲市PTA連合会 会長 久文 秀典

さる11月10日(土)、「抱きしめよう!次代を生きる地域の宝～未来へつなぐ希望の架け橋～」を大会スローガンに、日本PTA中国ブロック研究大会が、山口県岩国市で開催されました。(中国地方各地よりPTA関係者約1,500人、島根県各地からも100名近いご参加でした。)

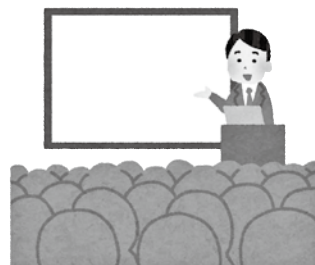
大会午前の部は9:30からのウエルカムコンサート(市内の中学校吹奏楽部)に始まり、10:00からの開会式を経て、岩国市内3つの小学校PTAによる実践者発表、そして午後の部は、子ども神楽によるアトラクションから、今回研修の目玉、『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶応大学に現役合格した話』(通称:ビリギャル)の坪田信貴先生の記念講演で大いに盛り上がり、最後は次年度開催の広島大会へとつなぐ閉会式で15:30に終了と相なりました。

本当に内容充実、得ること盛りだくさんだった今回の研究大会、その中でも私の心に最も響いたものといえば、午前の部で登場された岩国市立錦清流小学校PTAのみなさん方による実践者発表でありました。

現在、全児童数60余名である同校では、以前から地域や保護者からの積極的な支援がなされていたようですが、近年その傾向はさらに積極性を増し、「支援から参画へ」というレベルにまで達してきているとか。

その現状を実に晴れ晴れしく、そして実に楽しく、

発表をなさっていらっしゃるお姿に接したとき、受講者のほとんどの方々は、大いなる感動と心からの敬意を払わずにはいられなかったことと思います。そこには、PTAの理想像に近いカタチが、確かにあるような気がしました。まさに、あっぱれ! 岩国市立錦清流小学校PTAに拍手喝采! そして、岩国大会に感謝! はい!



事務局だより

平成31年度事業について

1. 広報紙コンクール

- (1) 応募締切日 平成31年3月29日(金)
- (2) 応募条件
 - ・年2回以上発行していること
 - ・2作品につき3部ずつ送付(コピー不可)

2. 県P会長表彰

- (1) 団体締切日 3月29日(金)
- (2) 個人締切日 4月24日(水)



3. 大会等の予定

- (1) 新旧会長会 6月1日(土)午後～ ホテル白鳥
- (2) 委員総会 6月2日(日)午前10:00～
サンラポーむらくも
- (3) 島根県PTA連合会研修大会江津大会
8月4日(日)
- (4) 日P兵庫大会 8月23日(金)・24日(土)
- (5) 中国ブロックPTA研究大会広島市大会
11月2日(土)
- (6) 幼こども園・小中・高・特別支援PTA
連絡協議会研修会(会場:出雲市・期日未定)
- (7) 県母親委員会研修会(会場:あすてらす)
日時:未定・例年11月下旬～12月上旬の土曜日か
日曜日に開催)



平成30年度

島根県幼こども園・小中・高・特別支援PTA 合同研修会

平成30年12月8日(土) 13:00~15:50 島根県立大学浜田キャンパス

研修テーマ

子どもと地域の未来に向けて魅力あるPTAを創る!

学校・家庭・地域が連携・協働し、地域総がかりで子どもを育てていくためにPTAが果たすべき役割について考える研修会が、平成30年12月8日(土)、島根県立大学浜田キャンパスで開催されました。島根県幼こども園・小中・高・特別支援PTA連絡協議会と島根県教育委員会が合同で開催したもので、PTA会員ら約120名が参加しました。

講師には、島根県教育魅力化特命官・一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム共同代表の岩本悠氏をお招きし、子どもにとって魅力ある教育とはどのようなものか、魅力ある教育環境をつくっていくためにPTAが果たす役割はどのようなことか、などについて講演やグループでの意見交換を通して考えました。

講演では、岩本氏ご自身の学生時代のエピソードや、小学生の子を持つ親としての子育てに対する考えや実践なども交えながら、主体性、協働性、探究性、社会性などの非認知能力の重要性などについてのお話がありました。目に見えにくい力が目に見える力をつけていく上でも重要であり、それは、育つ土壌や環境が影響する。子どもが主体的に様々なことに挑戦することができる、安心・安全の土壌があるか。子どもたちに、学び続ける意欲や探究する力を育むための対話の土壌があるかなど。

その土壌づくりには大人の姿勢が大きく影響しており、「こんな大人になってもらいたいと子どもに願う姿は、まず自分ができる大人になること」など、親やPTAとしてできることについて多くの示唆を頂きました。

意見交換では、4人程度のグループになり、「親としての願い、子どもたちにこんな人になってもらいたい、身につけてもらいたい資質・能力を育むために、親やPTAとしてできることは何か」についてアイデアを出し合いました。

意見交換の最後には、参加者から、「親が楽しくPTAなどの活動

をしていくこと。『しまね家庭の日』などを利用して、親同士が交流できる機会を持つ。」「PTAの役は敬遠されがちだが、やってみると楽しい。このような会に出たこと



がない人も巻き込んでいく。」などの意見が発表されました。

岩本氏からは、「本気で挑戦する大人の姿こそが本気で挑戦する子どもを育てる。楽しむ大人の姿がいきいきとした子どもを育てる。」とのまとめの言葉を頂きました。岩本氏のファシリテートのもと、講演、意見交換を通して、明るく・楽しく・前向きに、子どもにとって魅力ある教育とはどのようなものか、魅力ある教育環境をつくっていくためのPTAの果たす役割について、参加者全員で考える機会となりました。

各地域のPTA活動等においても、このようなテーマについてみんなで考え、意見交換する機会を取り入れてみてはいかがでしょうか。



●参加者の感想から…

- 子どもたちの学びについて親も含めて考えていかないといけないと思った。
- 今回の研修は大人としての在り方も考えさせられた。子どもが自分で自分の道を歩んでいけるようサポートして共に歩いていきたいと思う。
- 親がまず楽しめるPTA活動を工夫していきたい。
- 活動は簡素化・簡略化がよしとされがちな時代だが、つながりを深める協議や研修を実施することは大事だと思う。

島根県PTA連合会

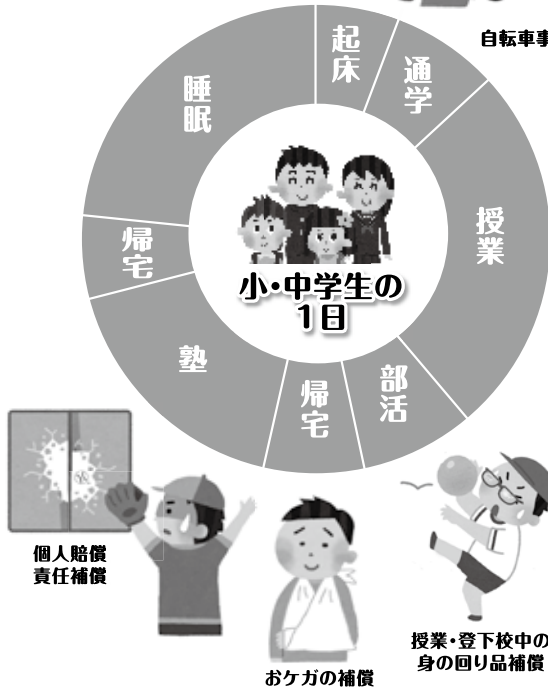
小・中学生総合保障制度

(こども総合保険)

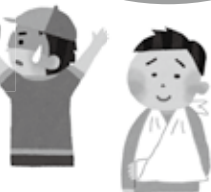
島根県の小中学生の
約**5**人に**1**人が加入
(2018年引受保険会社内データより)



自転車事故



個人賠償
責任補償



おケガの補償



授業・登下校中の
身の回り品補償

2019年1月現在の内容です。

選べる4プラン (2019年度版)

プラン年間掛金

Zプラン

17,500円
(1年分の掛金)

Rプラン

10,000円
(1年分の掛金)

Eプラン

7,000円
(1年分の掛金)

Fプラン

5,000円
(1年分の掛金)

総合保障制度の特長

※プランによってセットされている補償項目は異なります。総合保障制度の詳細に関しましては、パンフレットをご覧ください。

- 補償期間中、1日24時間(学校の休みの日も)補償
(ただし、一部の補償は24時間補償ではありません。)
- 個人賠償責任補償は自転車事故にも対応
- お子さまがケガをした場合に補償
- 熱中症、細菌性食中毒、ウイルス性食中毒を補償
- 地震・噴火・津波によるケガを補償
- 学校の授業・登下校中などにお子さまが携行している身の回り品を補償
(修理費または時価額のいずれか低い金額を補償します。)
- お子さまの病気入院・手術を補償

取扱代理店

東部地区、大田、邑智郡、隠岐郡
…有メ イ ジ (0120-001-230)
浜田、江津
…有コテラ総合保険 (0855-28-2121)
益田、鹿足郡
…有ビッグ・マインド(0856-23-7353)

引受幹事保険会社

AIG損害保険株式会社 松江支店

松江市伊勢宮町519-1大同生命ビル6F
(受付時間:午前9:00~午後5:00 土日・祝日年末年始を除く)
TEL.0852-26-2781 FAX.0852-26-2776

S-190317 有効期限2020年2月



編集/発行 島根県PTA連合会 事務局/松江市黒田町538 TEL0852-27-5803 FAX0852-26-7710
E-mail:simapren@ms1.megaegg.ne.jp http://www.shimane-pta.jp 島根県PTA連合会 検索